

川崎市立南原小学校いじめ防止基本方針

1 令和8年度 学校経営計画

学校教育目標

「人間性豊かな南原の子」の育成

「人間性豊かな南原の子」は開校当時から受け継がれている学校教育目標であるが、かわさき教育プランの理念「夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く」のもと、次代を主体的に生きる自立して生きる力や、それぞれの個性や能力を活かしてふるさとに誇りをもち、未来を創造する力、豊かな心と健やかな心身をもつたくましい子どもの育成につながるよう推進するものとする。

- ・教育関係法令
- ・小学校学習指導要領
- ・かわさき教育プラン
- ・学校評価の方法
- ・夢教育 21 推進事業

学校経営方針

1. 創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、児童一人ひとりのよさや可能性を引き出し、児童に生きる力をはぐくむことをめざした教育課程の充実を図る。
2. 開かれた学校をめざし、地域や保護者、学校との信頼関係を基盤にすえた学校経営を行う。

めざす子ども像

- S** しなやかな子
- K** かんがえる子
- Y** やさしい子

中期学校経営目標（5年目標） → 学校経営の4つの評価領域

① しなやかな子	② かんがえる子	③ やさしい子	④ 信頼される学校
<ul style="list-style-type: none"> ○自己有用感、自己効力感の醸成 ○失敗を恐れずに挑戦できる環境づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的・対話的で深い学びの実現 ○社会に開かれた教育課程の編成 	<ul style="list-style-type: none"> ○互いの違いを認め合い、尊重し、助け合える関係づくり ○道徳的実践力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者・地域の参画 ○教職員の資質・能力の向上 ○探究的・創造的な学校組織の創出

短期学校経営目標（今年度の重点目標）

<ul style="list-style-type: none"> ○規律ある学年および学級経営 ○子どもたちの創意工夫を生かした自主的・自治的な活動の保障 ○児童の多様な状況を生かした集団づくり ○キャリア在り方・生き方教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○探究的な学びへの授業改善 ○地域や学校の特色、児童の実態を生かした体験活動の位置づけ ○個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○一人一人の児童の居場所づくり ○不登校・登校しぶり、いじめの未然防止に向けた取り組みの充実 ○人権尊重教育、道徳科と学校生活との関連 ○誰もが安心して自己発揮できる集団づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校の取り組みの効果的な発信 ○実効性のある学校評価の工夫 ○外部の専門家等を活用した教育の工夫 ○目的に向かって方法を創出できる、挑戦できる組織づくり
---	--	---	--

重点に係る具体的な取組

<ul style="list-style-type: none"> ・居心地の良い学級づくりの充実 ・学級会、学級活動の内容の質的な向上 ・発達段階に応じた自主的・実践的な活動の工夫 ・たてわり活動を通じた、学び合い助け合う風土の醸成 ・よりよい生活のために主体的に行動しようとする自己指導能力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究を中心とした「深い学び」の実現 ・各教科の関連を図った横断的なカリキュラム・デザイン ・GIGA 端末の効果的な活用 ・きめ細やかな指導を通じた確かな学力の育成 ・児童の多様な状況に応じた合理的配慮の工夫とユニバーサルデザイン 	<ul style="list-style-type: none"> ・効果測定や共生*共育、学校生活アンケート等の有効活用 ・別室の有効活用など、個別最適な学習環境の創出 ・短期目標を明確にしたケース会議の実施 ・キャリアパスポートを活用した家庭との連携 ・全体計画と各教科等との関連の明確化 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページ、学校だより、学校公開、行事を有効活用した情報発信 ・学校運営協議会の活動の周知 ・保護者や地域との協働を意識した学校評価の工夫 ・外部講師や保護者ボランティアとの積極的な連携 ・学校運営方針を踏まえた目標の具体的な設定 ・ワークライフバランスを大切に健康の保持、増進
--	--	--	--

2 「学校いじめ防止基本方針」策定の目的

いじめはどこの学校や集団にも、どの児童生徒にも起こりうる問題であり、いじめを次に示す定義のように捉えることは、いじめの行為があったかどうかを学校が判断し、法的な責任を負うことをねらいとするものでなく、いじめられている児童生徒の救済を第一にして対応するものです。そのために、学校は一人ひとりの児童生徒との信頼関係を築きながら、いじめの未然防止、早期発見・早期対応に取り組むために「学校いじめ防止基本方針」を改訂します。

3 いじめの定義

「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為(インターネットを通じて行われるものを含む。)であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいいます。

4 学校が実施する取組

(1) いじめの未然防止の取組

いじめを未然防止するには、いじめが発生しにくい学校の風土づくりが基本となります。教職員は児童生徒の理解を深め、信頼関係を築くとともに、一人ひとりを大切にされた授業を実践するように努めます。また、あらゆる教育活動を通じて、他人を思いやる心や正義を重んじる心などの豊かな人間性をはぐくみます。

① 学校体制を確立し、環境を整備します

いじめは絶対に許されないという共通認識に立ち、全教職員で児童生徒を見守っていくためには、いじめの予兆や悩みがある児童生徒を見逃さないしくみづくりや、インターネット上のいじめの防止、問題解決のための組織づくりをするとともに、相談活動がしやすい環境づくりや教職員の計画的な研修の実施など、学校体制を確立します。

② 児童生徒の心を受け止められる感性を磨き、教職員としての人間性を高めます

教職員自身が児童生徒から信頼されるよう自己研鑽し、人間性を高めるよう努力することは教職員としての基本です。児童生徒を一人の人間として尊重し、児童生徒の気持ちを理解し、児童生徒と感動を共有することができるか、自分の心が一人ひとりの児童生徒に向かって開いているか、絶えず自問します。

③ 児童生徒一人ひとりが生きる教育活動と効果的な学習活動を実践します

学校生活の大半を占める授業を「学ぶ楽しさ」が味わえる充実した時間にするすることで、児童生徒は前向きに学校生活を送ることができるようになります。また、学校行事や体験活動などを工夫し、充実を図ることで他者と深く関わる経験を重ね、他者への思いやりや対人スキルを身につかせます。

④ 児童生徒の自浄力を育てます

児童生徒自身に「自浄力」を身につけさせることは、未然防止のなかでもっとも重要です。児童生徒の自主的、主体的な活動が、「いじめをやめさせたいと思う児童生徒」を育て、いじめを抑制します。自校に誇りをもたせ「自分たちの学校ではいじめは許されない」という気運を高めていきます。

(2) いじめの早期発見

いじめの発見が遅れると、いじめの内容がエスカレートするばかりでなく、関わっている児童生徒が増加して関係が複雑になり、解決が困難になります。「いじめは見ようとしなければ見えない」と言われます。深刻な事態を招かないためにも児童生徒のわずかな変化を手がかりに、早期発見に全力を尽くします。

① 日常のきめ細やかな観察をします

普段の授業における児童生徒の顔色や姿勢、学習態度などは、児童生徒の理解を深める大切な情報です。また、授業以外のさまざまな場面での言葉づかいや行動、表情、視線、声をかけたときの反応を観察します。

② 相談体制を整備します

学校における教育相談体制を確立し、児童生徒や保護者に啓発することによって、いじめられている児童生徒や周りの児童生徒が相談しやすい環境をつくります。

③ 定期的なアンケート・チェックシートを実施します

定期的な学校生活アンケートや教職員用のチェックシート等を活用し、児童生徒の状態や指導法を客観的に把握し、いじめの早期発見につなげていきます。

(3) 校内いじめ防止対策会議の設置

校内いじめ防止対策会議（以下、「対策会議」という）は、いじめの防止等の中核となる組織として、校務分掌に位置づけ、「学校基本方針」に基づく取組の実施や具体的な年間計画の作成・実行・検証・修正等を定期的（いじめを認知した場合には状況に応じて）に行い、校内いじめ対策ケース会議の情報の集約を共有します。

(4) いじめへの対処

いじめの対応を担任一人だけで行くと、解決を遅らせ事態を悪化させる恐れがあります。いじめを認知した、またはその疑いがあった時点で全教職員に周知し、多方面からの確・迅速に対応する必要があります。さらに保護者への対応についても誠意を尽くし、問題解決に向けて信頼関係と協力体制を確立します。

① 校内いじめ対策ケース会議の立ち上げ

いじめの疑いがある情報があったときには、管理職、及び児童生徒指導担当者・支援教育コーディネーター等と当該事案に関わりのある教職員で構成された校内いじめ対策ケース会議（以下「ケース会議」という）を迅速に立ち上げ、個人情報に配慮しながら、いじめに関する情報の収集と情報共有、事実確認の方法や役割分担の確認、対応方針及び支援・指導体制の決定をし、解決に向けた支援・指導を行い、保護者との連携を管理職のリーダーシップのもと組織的に実施します。また、状況に応じて当該事案の対応方針及び支援・指導体制等の見直しを行います。

② いじめられた児童生徒への支援

- もっとも信頼関係ができていない教職員が対応し、「最後まで絶対に守る」という意思を伝えます。
- 児童生徒の意向を汲みながら、学校生活の具体的なプラン（登下校の方法など）を立てます。
- 心のケアや登下校・休み時間の見守りなど、安全で安心できる環境づくりに努めます。

③ いじめた児童生徒への指導

- よく事情を聞き、いかなる事情があっても、いじめることはいけないことだと教え、同じことを繰り返さないようにします。
- いじめた行為そのものは、よくないことと理解させつつ、相手に対して心身の苦痛を与えるような結果になってしまった理由を考えさせ、どこがいけなかったのか、どうしたらよかったのかを考えさせます。
- いじめに至った要因や背景を踏まえ、立ち直りに向けた相談活動や指導を継続的に行います。

④ 周囲の児童生徒への指導

- はやしたてたり、見て見ぬふりをしたりするのは、いじているのと同じだということを理解させます。

- いじめを防ぐことができなかつたことを見つめなおさせ、再発を防ぐための具体的な手立てを指導します。
- 必要に応じて学級、学年さらに学校全体に広げて再発防止へ向けた指導を行います。

⑤ 保護者への対応

- いじめに関係した児童生徒の保護者には迅速に事実を伝え、ケース会議で決定した指導方針と対応策を示すとともに、いじめ解消に向けて協力を要請します。
- 解決するまで学校が主体性を発揮し、解決後も定期的に児童生徒の学校や家庭での様子を保護者と情報交換し、経過観察を行います。

5 重大事態への対処

(1) 重大事態の意味

次に掲げる場合を重大事態とといいます。

- ① いじめにより児童生徒の生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認めるとき。
- ② いじめにより児童生徒が相当の期間、学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認めるとき。

「いじめにより」とは、①②に規定する児童生徒の状況に至る要因が当該児童生徒に対して行われるいじめにあることを意味します。

①の「生命、心身又は財産に重大な被害」については、いじめを受ける児童生徒の状況に着目して判断します。例えば、

- 児童生徒が自殺を企図した場合
- 身体に重大な傷害を負った場合
- 金品等に重大な被害を被った場合
- 精神性の疾患を発症した場合

などのケースが想定されます。

②の「相当の期間」については、不登校の定義を踏まえ、年間30日を目安とします。

ただし、児童生徒が一定期間、連続して欠席しているような場合には、上記目安にかかわらず、教育委員会又は学校の判断により、迅速に調査に着手します。

また、児童生徒や保護者からいじめにより重大に被害が生じたという申し立てがあったときは、その時点で学校が「いじめの結果ではない」あるいは「重大事態とはいえない」と考えたとしても、重大事態が発生したものとして報告・調査等に当たります。

(2) 事実関係を明確にするための調査の実施

学校は、重大事態に至る要因となつたいじめ行為が、いつ（いつ頃から）、誰から行われ、どのような態様であったか、いじめを生んだ背景事情や児童生徒の人間関係にどのような問題があったか、学校・教職員がどのように対応したかなど事実関係を、可能な限り網羅的に明確にします。

なおこの調査は、民事・刑事上の責任追及やその他の争訟等への対応を直接の目的とするものではないことは言うまでもなく、学校が事実に向き合うことで、当該事態への対処や同種の事態の発生防止を図るものです。

6 令和8年度 いじめ防止対策組織・役割分担

【校内いじめ防止対策会議の構成】（校務分掌に位置付ける）

校長、教頭、教務主任
総括教諭、学年主任
支援教育コーディネーター ※以下 Co
養護教諭
スクールカウンセラー（月2回派遣）
スクールソーシャルワーカー（要請による派遣）

【いじめ防止対策の企画・運営】

- ・学校運営（学校評価）におけるいじめ防止に関する目標の設定・検証・・・（Co）
- ・いじめ防止対策年間指導計画の作成・・・・・・・・・・・・・・（Co）
- ・いじめ防止指導研修会の企画、運営・・・・・・・・・・・・・・（Co）
- ・いじめ問題に関する資料の管理・・・・・・・・・・・・・・（Co）
- ・道徳教育との連携・・・・・・・・・・・・・・（Co）
- ・学校いじめ防止基本方針の見直し・・・・・・・・・・・・・・（Co）

【教育相談】

- ・教育相談のねらい・年間計画の作成・・・・・・・・・・・・・・（Co）
1年、2年、3年、4年、5年、6年・・・・・・・・・・・・・・（学年主任）
- ・相談室窓口、相談室の管理、運営・・・・・・・・・・・・・・（Co）
- ・スクールカウンセラーとの連携・・・・・・・・・・・・・・（Co）

【児童生徒・保護者・地域との連携】

- ・児童会本部・運営委員会との連携・・・・・・・・・・・・・・（児童会活動担当）
- ・PTA校外委員会との連携・・・・・・・・・・・・・・（教務主任）
- ・地域教育会議との連携・・・・・・・・・・・・・・（教務主任）

【関係機関との連携】

- ・警察との連携・・・・・・・・・・・・・・（校長、教頭、教務主任、Co）
- ・児童相談所との連携・・・・・・・・・・・・・・（校長、教頭、Co）

7 令和8年度 いじめ防止等対策年間計画

月	活 動 内 容 (校内いじめ防止対策会議・児童生徒指導部会・職員会議等)
4	<ul style="list-style-type: none"> ・基本方針・重点目標の確認 ・構成員の確認 ・役割分担 ・年間指導計画確認 ・いじめの未然防止、早期発見、早期対応方法等についての研修 ・かわさき共生*共育プログラムエクササイズ1回目 (学級開き リレーション作り)
5	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・第1回学校生活アンケート実施に向けた内容検討 ・学校生活アンケート集約について
6	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・第1回学校生活アンケート実施 ・結果を受けての対応について ・携帯・スマートフォン教室実施 <p>【児童生徒指導点検強化月間】の取組 (具体的な内容→教育相談を通じた児童理解の徹底)</p>
7	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・かわさき共生*共育プログラム効果測定1回目実施 ・かわさき共生*共育プログラムエクササイズ3回実施 (7月～9月) ・教育相談週間の実施 ・夏休み期間中の対応確認
8	<ul style="list-style-type: none"> ・かわさき共生*共育プログラム効果測定1回目集計・効果測定の分析 (職員研修) ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・いじめ防止対策に関する研修会
9	<ul style="list-style-type: none"> ・かわさき共生*共育プログラム効果測定2回目実施 ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・前期の反省とまとめと後期の具体的な取組の確認 ・携帯・スマートフォン教室実施
10	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・かわさき共生*共育プログラム効果測定2回目集計・効果測定の分析 ・第2回学校生活アンケート実施に向けた内容検討 ・学校生活アンケート集計について
11	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回学校生活アンケート実施 ・学校生活アンケート結果を受けての対応について ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・かわさき共生*共育プログラムエクササイズ2回実施 (11月～2月) ・いじめ防止授業といじめ防止標語作りの取り組み実施
12	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止標語の校内掲示 ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・教育相談週間の実施
1	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・かわさき共生*共育プログラム効果測定3回目実施 ・かわさき共生*共育プログラム効果測定3回目集計 ・第3回学校生活アンケート実施に向けた内容検討 ・学校生活アンケート集計について
2	<p>【学校体制振り返り月間】の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3回学校生活アンケート実施 ・学校生活アンケート結果を受けての対応について ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認・効果測定の分析 ・今年度の反省→学校評価への反映
3	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・来年度に向けての基本方針の見直し

◎本校のいじめ防止に向けた取組

児童・生徒の自主的な取組

[自主的な企画・運営]

- ・児童朝会や集会、縦割り活動での呼びかけや人間関係づくりのレクリエーション
- ・委員会を通じた生活の合言葉の設定と呼びかけ
- ・自主的なあいさつ運動やクリーン活動

[交流活動の活性化]

- ・縦割り活動、ペア学年での交流活動
- ・フロア学年による集会や交流活動
- ・クラブ活動
- ・委員会活動（あいさつ運動、校内美化・清掃活動等）
- ・幼保小連携活動（次年度の新入生に学校紹介・体験活動）
- ・近隣校との交流
- ・町内会、子ども会など地域行事での交流活動

[啓発活動]

- ・いじめ防止標語やポスターの作成、いじめ撲滅キャンペーンの実施
- ・年間テーマの設定、掲示

保護者の取組（PTA 活動）

- ・広報誌での呼びかけ
- ・学校教育活動へのボランティア

地域住民の取組

- ・地域での見守り活動
- ・地域の特色を生かした学習活動への協力（野菜・昔遊び）
- ・学校教育推進会議への参加、児童との意見交流